

## 樟の庭

第 231 号

令和元年(2019年) 9 月 25 日

大阪市立新北野中学校

## いよいよ体育大会…「心のスタミナをつけよう」



今週の金曜日、いよいよ第72回体育大会が開催されます。皆さんは今、本番の成功に向けて、体育の時間や学年練習に励んでいます。

私も、この学校が7校目なので、いろいろな学校の体育大会を見てきました。

ある学校では8段のピラミッドを見ました。また、ある学校では組立演技で人間ロケットも見ました。

しかし、観ている人に本当の感動を与えるのは、このような奇抜な演技ではなく、皆さんが「真剣に頑張る姿」です。

例えば、100mを10秒で走れる人が、12秒で走ってもそこに感動は生まれません。けれども、100mをいつもは20秒で走る人が、19秒で走ったら、その懸命な姿は見ている人たちに感動を与えます。皆さんも真剣にすべての演技・競技に取り組んでほしいと思います。



また、この体育大会を通じて、皆さんには「心のスタミナ」を蓄えてほしいと思います。4年前の「ラグビーW杯」で日本は世界第3位の強豪国、南アフリカに勝利をします。世紀の番狂わせと言われたこの試合。最後のワンプレーで3点負けていた日本は、入れば同点となるペナルティーキックを選ばず5点入り逆転できる、トライに挑みます。見事トライで大逆転勝利。主将のリーチ・マイケルは「体力をしのご気力では絶対に負けないと確信した」と言っています。

しかし、体力だけでは持ちません。体力を支えるのが「心のスタミナ(気力)」です。

皆さんは、これからの人生の中で、いっぱい辛いことに会います。いくら体力があっても、心が弱ければ負けてしまいます。また、いくら勉強しても心にスタミナがなければ、せっかくつけた学力を活かすことは出来ません。この「心のスタミナ」の最大の敵は「わがままな心」です。

体育大会でなぜ、行進があるのか、全体体操があるのか、全員で校歌を歌うのか。それは、これらを通して、周りの皆と合わせる心、協力する心、我慢する心をしっかりと学び、やがて「タフな心」すなわち「十分なスタミナ」を心に蓄えた人間として成長していくためです。

自分のわがままな心を律して、周りの人たちと同じ行動をとることは、自分の心の硬さを取り、柔らかな心を作っていきます。困難に出くわしたときに「折れない心」を作っていきます。「心のスタミナ」は、皆さんにとって、いろんな困難から守ってくれるとても大切なものになるでしょう。

しかも一度手に入れた「心のスタミナ」は、簡単になくなるものではないのです。そのためにも、しっかりと行進、体操をし、校歌を歌いましょう。

(校長 太田 忠男)

